

英語をもっと身近に

東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、日本への外国人観光客は増加しています。英語の重要性は以前から叫ばれていますが、今後は実践的な英会話力が必要になってきます。町内の学校では様々な英語学習に取り組んでいます。県北中学校では、ネイティブな英語に触れてもらおうと、英会話研修が行われました。

変化する英語学習

英語の学習が大きく変わろうとしています。2020年の英語教育改革に向け、英語を「聞く力」「話す力」など実践的コミュニケーション能力を強化していく動きがあります。

町では県北中学校2年生を対象に、英語を「聞く力」「話す力」強化のため「英会話研修」を行いました。英会話といっても単に英語で会話するだけではなく、英語を母国語とするA・L・T（英語指導助手）6人を講師に、ネイティブな英語を体験してもらいました。

「話す力」の実践

英会話研修は6月14日に県北中学校で行われました。研修が行われた時間は約2時間。この2時間は日本語は話せず、伝えたいことは全て英語で伝えていかなければなりません。

生徒は1グループ15人程度のグループに分かれ、1グループに1人の講師が付き、英会話に取り組みました。

生徒の間に緊張感が漂う中、まずは英語で自己紹介からスタート。生徒たちは英語の授業で学習した単語や文法を活用しながら、名

前や趣味などを発表していきます。講師が自己紹介した際には、生徒から「好きなスポーツは何ですか?」「ガールフレンドはいますか?」など自由な質問が挙げられ、会話を楽しんでいました。

自己紹介でお互いの名前や人柄を知ることができた講師と生徒は、ゲームを通して、より英語に親しんでいきました。英語の質問が書かれたカードを引き、質問に答えるとポイントがもらえる「マジックボックスゲーム」では、英文の読解力と質問に答える力を鍛えました。

英会話を楽しむ

始めは緊張していた生徒たちも、自分の英語が講師に通じると、一気に距離が縮まりました。今回の研修を通して、生徒たちは英語でのコミュニケーションに自信を持ち、意思疎通する喜びを実感できたと思います。3年生はブリティッシュヒルズ研修でさらに実践的会話力を深めていきます。

英語をもっと身近に

中学校だけでなく、幼稚園や小学校でも、英語を身

近に体験できる取り組みが行われています。くにみ幼稚園では、英語活動が行われ、月に1回は町A・L・Tのポール・ライダー先生と一緒に取り組んでいます。園児たちは、ポール先生やオスタフイエブ先生と英語の曲に合わせてダンスをしたり、ゲームを通して、英単語や英会話を学んでいます。園児はみんな、英語で遊ぶことも先生のことも大好きな様子で、英語に親しんでいました。英語は今後さらに必要性を増してくると思います。苦手意識を持たずに、英語に親しんでいきましょう。

参加者の声



チャド・セントビンセント先生
(福島成蹊高校)

県北中学校の英会話研修に講師として参加しました。今回の研修は、生徒たちが積極的に参加してくれたので、良い研修会になりました。生徒たちは、自分が知っている限られた英語で伝えようと頑張っていた姿が印象的でした。また、発音もよかったです。

英語が苦手な人は、まず自分の好きなことを英語で話せるように取り組んでみてください。Don't give up!!

渋谷雪乃さん(県北中2年)

始めは緊張しましたが、ゲームなど楽しく取り組むことができました。また、外国の人と話す機会があれば話してみたいと思いました。

鈴木愛さん(県北中2年)

緊張しましたが、楽しんで英語にふれることができました。

佐藤理子さん(県北中2年)

会話の中で英文が分からなくても、単語やジェスチャーでコミュニケーションできることが分かり、良かったです。



①英会話を実践 ②講師からの楽しい話に笑みがこぼれます ③互いに会話で理解しあいハイタッチ ④幼稚園では英語に合わせてポール先生と楽しくダンス

